

⑥「レディ・ジョーカー」

昭和末期に関西で起きた「グリコ・森永事件」に着想を得て書かれた小説「レディ・ジョーカー」がこの度テレビドラマ化された。原作者は社会派作品を硬質な文体で描くのが特徴の高村薫である。

同作品を週刊誌「サンデー毎日」に連載するためちょうど執筆に取り掛かった1995年1月の17日、大阪の自宅2階の寝室で寝ていた彼女は阪神大震災の直撃を受け、大きな揺れを十数秒間経験したという。「その時わたしという人間が変わってしまいました。人間というか価値観。揺れている最中に、世界の見え方が、“死”の直感が、作家の内面を文字通り変えたのです。ただ、そのことを経験していない人に伝えるのは難しい...」。

その後、彼女が作風を一変させたことはファンなら誰でも知っている。「わたし自身体験するまで、大地震というのを想像できませんでした。そのすぐ前の奥尻島の津波（93年）も、いやというほどニュース映像で見ているのに、理解していなかった。体験してみて初めて奥尻島の人のことが分かったんです。」と、記者に話す彼女は とても辛そうだった。

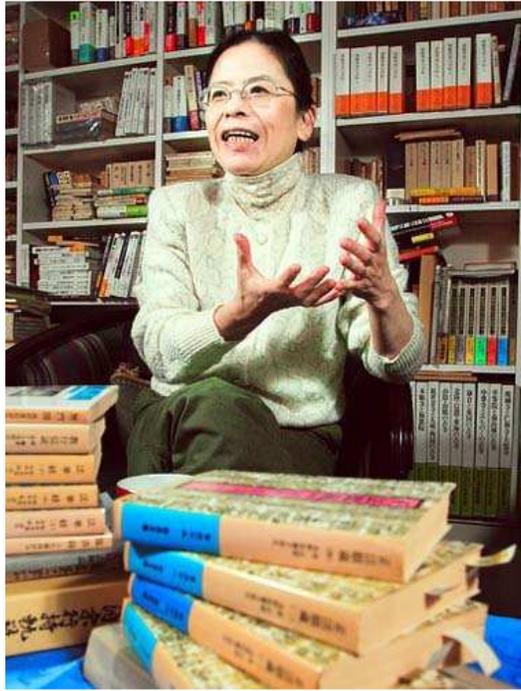
当たり前の話だが情報と体験は全く違う。だが我々は、震災に限らずこれら悲劇を「分かったつもり」になってはいないか？ 聖書は言う。

「この大祭司（キリスト）は、私たちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、私たちと同様に試練に遭われたのです。」

ヘブル人への手紙 4章 15節：共同訳。

実はキリスト信仰の真髓がここにある。クリスチャンになることは宗教に凝ったり、教会のメンバーになったり、聖書を勉強したりすることではない。我ら人類を愛するゆえに観察者ではなく自ら十字架の死を体験され、復活したキリストを信じることである。そうすることで初めて我らも人を心から愛することが体験出来る。

2013-4-23



高村薫
レディジョーカー
上

レディ

誘拐

巨大ビール会社社長が
連れ去られた。
合田警部補の眼前に広がる
異き迷宮。

上
Lady Joker
全3巻

新編文庫の新刊

伝説の長篇、ついに改稿文庫化!